

(誌+要約+請求の範囲)

- (19)【発行国】日本国特許庁(JP)
 (12)【公報種別】公開特許公報(A)
 (11)【公開番号】特開平7-311800
 (43)【公開日】平成7年(1995)11月28日
 (54)【発明の名称】固定資産管理システム
 (51)【国際特許分類第6版】

G06F 17/60

【FI】

G06F 15/21 Z

【審査請求】未請求

【請求項の数】2

【出願形態】OL

【全頁数】5

(21)【出願番号】特願平6-103777

(22)【出願日】平成6年(1994)5月18日

(71)【出願人】

【識別番号】000002174

【氏名又は名称】積水化学工業株式会社

【住所又は居所】大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)【発明者】

【氏名】豊田 富美穂

【住所又は居所】茨城県つくば市梅園2-32-3

(57)【要約】

【目的】固定資産の照合を誰でも短時間で容易に行なえるようにすると共に、ホストコンピュータにある固定資産のデータをハンディターミナル側で改訂できるようにする。

【構成】データ入力部21から固定資産W毎に複数項目のデータを入力しデータ記憶部22が記憶するホストコンピュータ2と、読取り部41が固定資産W毎に予め付与されたバーコードを読取り、又は、端末入力部44からデータを入力し、無線通信部42が変調し通信するハンディターミナル4と、送受信する信号を変復調し、入力部へ入出力する無線ターミナル3とからなり、ハンディターミナル4で読取ったデータに該当する固定資産Wのデータと読取ったデータとを表示部43に表示し照合する。改訂が必要な場合は端末入力部44で入力し、訂正データをホストコンピュータ2に訂正記憶する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 特定人に属すべき固定資産毎に固定資産に関するデータを入力する入力部と、固定資産毎のデータを蓄積するデータ記憶部と、固定資産毎に予め付与されたバーコードを読取る読取り部と、データを表示する表示部と、入力部から入力されるデータをデータ記憶部に蓄積させ、読取り部からのバーコードを蓄積データから選択し表示部に表示させる制御部を有することを特徴とする固定資産管理システム。

【請求項2】 特定人に属すべき固定資産毎に固定資産に関する複数項目のデータを入力する入力部と、入力された固定資産毎のデータを記憶するデータ記憶部と、データ記憶部に記憶されたデータの入出力を外部と行なう入出力部と、入力部から入力されるデータをデータ記憶部に記憶させ、入出力部から入力される制御信号により、入力されるデータに対応する記憶データを出力させ、あ

出力することで無線通信させる無線ターミナルと、固定資産毎に予め付与されたバーコードを読取る読取り部と、入出力する信号の変復調を行ない無線通信する無線通信部と、データ入力可能な端末入力部と、固定資産のデータを表示する表示部と、読取り部の読取ったバーコードのデータ及び照合を指示する制御信号を無線通信部から送信させ、対応するデータを無線通信部で受信させ、受信データを表示部へ表示させ、端末入力部で変更された受信データを無線通信部からデータ及び改訂記憶を指示する制御信号を送信させる端末制御部からなる端末部を有することを特徴とする固定資産管理システム。

詳細な説明

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、企業、法人、自然人等の特定人に属し、同人が管理する種々ある固定資産の管理・照合を行なう固定資産管理システム、及び、同システムを本体及び端末間で無線通信により行なう固定資産管理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、企業、団体等に属する固定資産の管理は、固定資産購入時に個別に番号が付与され、その番号がホストコンピュータに登録され、同時に番号ラベルが固定資産に貼付されて使用部署へ渡されていた。そして、毎年決算期に行なわれるチェックの際には、企業等の照合担当者が企業内の通常あるべき場所へ行き、ホストコンピュータから出力した管理番号・品名等のリストデータと固定資産とを目視照合し確認していた。一方、従来、バーコードを用いた管理方法としては、管理対象物の鮮度及び価格の管理を可能とする管理システムとして特開平5-54211号公報記載の発明が知られている。この管理システムでは管理対象物に貼付するバーコードに予め販売管理に関連する日付・時刻情報を含ませ、バーコードデータから読取ったこれら情報と現日付・時刻とを比較解析することで管理対象物の販売管理を決定している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、かかる従来の方法では、例えば研究開発部門の専用測定機器等その名称が経理担当あるいは各部署の担当者等の照合担当者には、リストデータから判明しないことが多い。又、汎用性の高い計測機器等では企業内で設置場所を変更する場合が多く、照合に費やす時間が長くなるという問題点を有した。又、一般にデータの管理者に固定資産の設置位置の変更が伝わり難いためデータの改訂がスムーズに行なえないという問題点を有した。他方、従来のバーコードを用いた管理システムでは、端末装置から上位コントローラの個別データの改訂が行なえないため、照合と同時に管理対象の個別データの改訂は行なえないという問題点を有した。

【0004】本発明は、上記問題点に鑑みてなされたもので、専用機器等の知識のない照合担当者でも、容易にしかも、設置場所が移動された場合でも、固定資産の照合作業を行なえ、更に、データの改訂が照合時に同時に行なえる固定資産管理システムの提供を課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】そこでこの発明は、特定人に属すべき固定資産毎に固定資産に関するデータを入力する入力部と、固定資産毎のデータを蓄積するデータ記憶部と、固定資産毎に予め付与されたバーコードを読取る読取り部と、データを表示する表示部と、入力部から入力されるデータをデータ記憶部に蓄積させ、読取り部からのバーコードを蓄積データから選択し表示部に表示させる制御部とから構成することを特徴とする固定資産管理システム、及び、特定人に属すべき固定資産毎に固定資産に関する複数項目のデータを入力する入力部と、入力された固定資産毎のデータを記憶するデータ記憶部と、データ記憶部に記憶されたデータの入出力を外部と行なう入出力部と、入力部から入力されるデータをデータ記憶部に記憶させ、入出力部から入力される制御信号により、入力されるデータに対応する記憶データを出力させ、あるいは、記憶部に記憶されるデータを入力されるデータに改訂記憶させる制御部とからなる本体と、入出力部に接続され、入出力部から入力する信号を変調し送信すると共に受信する信号を復調し出力することで無線通信させる無線ターミナルと、固定資産毎に予め付与されたバーコードを読取る読取り部と、入出力する信号の変復調を行ない無線通信する無線通信部と、データ入力可能な端末入力部と、固定資産のデータを表示する表示部と、読取り部の読取ったバーコードのデータ及び照合を指示する制御信号を無線通信部から送信させ、対応するデータを無線通信部で受信させ、受信データを表示部へ表示させ、端末入力部で変更された受信データを無線通信部からデータ及び改訂記憶を指示する制御信号を送信させる端末制御部とから構成されることを特徴とする固定資産管理システムを提供することにより上述の課題を解決する。

【0006】

【作用】特定人に属すべき固定資産を購入時に固定資産毎に複数項目のデータを本体に入力し、データ記憶部に記憶する。固定資産の照合時には、制御部が読取り部で読取った固定資産のバーコードに対応するデータをデータ記憶部から選択し、表示部に記憶内容を表示させ、照合担当者が照合する。本体、無線ターミナル、及び、端末部に分け構成した場合、固定資産の照合時には、読取り部が固定資産に予め付与されたバーコードを読取る。バーコードのデータ及び制御信号を無線

記憶部から選択し、入出力部から無線ターミナルへ出力する。無線ターミナルでは変調し、端末部へ送信する。端末部の無線通信部が送信されたデータを受信後復調し、端末制御部がこのデータとバーコードのデータとを表示部に表示させ、照合担当者が照合する。照合の後、データの改訂が必要な場合には、端末入力部で受信データを変更し、端末制御部が訂正されたデータ及び改訂を指示する制御信号を無線通信部から無線ターミナルへ送信する。無線ターミナルが訂正されてたデータ及び改訂指示信号を受信し復調後、入出力部が入力し制御部へ出力する。制御部では入力したデータが改訂するデータであることを認識し、照合した固定資産のデータとしてデータ記憶部に改訂記憶する。

【0007】

【実施例】以下に、この発明の第1実施例を表す構成図である図1、データ記憶部の配置を表す説明図である図2、この発明の第2実施例を表す構成図である図3に基づきこの発明の実施例を説明する。

【0008】図1、図2に従い第1実施例を説明する。1は、固定資産管理システムであり、図1に表されるようにデータ入力部11、データ記憶部12、表示部13、読取り部14、制御部15とからなる。固定資産管理システム1はデータを蓄積しておき、固定資産の照合時に記憶したデータと照合し、固定資産を管理する。Wは、固定資産である。固定資産Wは、購入時には個々に与えられるナンバーのバーコードを貼付し、以後そのナンバーでデータ管理される。

【0009】

【表1】

資産NOと個別データの記憶アドレスの対応テーブル

資産NO	記憶アドレス			
	画像データ	購入日	製品名	設置位置
ABB0001	100000	200000	300000	400000
ABB0002	100100	200010	300010	400030
.
.

【0010】表1はデータ記憶部12の対応テーブルを説明する表である。固定資産Wに与えられるナンバーが固定資産NOに記憶されるとともに、画像データ・購入日・製品名・設置位置にも、対応して記憶される各データの記憶アドレスが記憶される。図2はデータ記憶部12の配置を表す説明図であり、データ記憶部12には対応テーブル記憶部・画像データ記憶部・購入日記憶部・製品名記憶部・設置位置記憶部が割り当てられそれぞれのデータが記憶される。データ記憶部12は、表1に表すように、データ入力部11から入力された固定資産W毎に対応テーブルに記憶アドレスを記憶すると共に、画像データ・購入日・製品名・設置位置の各データを各アドレスへ記憶する。

【0011】読取り部14は、予め固定資産Wに貼付されたバーコードを読取る。表示部13は、制御部15から出力される固定資産Wの各データを表示する液晶ディスプレイである。制御部15は、データ蓄積時には、データ入力部11から入力される固定資産Wのナンバー及び各データの記憶アドレスを対応テーブルへ順次記憶させると共に、各データを対応する記憶アドレスへ記憶させる。データ照合時には、読取り部14で読取られる固定資産Wのナンバーと、対応テーブルに記憶されたナンバーとを照合し、記憶された同ナンバーの各項目データを表示部13へ表示させる。

【0012】次にこの実施例の作用を説明する。データ蓄積時には、新規購入された固定資産Wに、既にあるナンバー「ABC0001」に続く「ABC0002」を付与すると共に、読取り部14が読取り可能なバーコードを貼付する。次いで、固定資産ナンバー「ABC0002」の各データを入力部11から入力する。入力された各データは、制御部15により表1に表す「ABC0001」の次の位置に、各データを記憶すると共に、各データの記憶アドレスを対応テーブルに記憶する。同様に複数の固定資産Wのデータを蓄積する。

【0013】固定資産Wの照合時は、固定資産Wに貼付されたバーコードを読取り部14で読取る。読取られた固定資産Wは「ABC0002」とする。制御部15がバーコードから読取られた「ABC0002」を、記憶部12の対応テーブルから選択し、対応する記憶アドレスに記憶された各データを入力し、表示部13に表示する。

【0014】次に、第2実施例を図3に基づき説明する。1は、固定資産管理システムであり、本体であ

合時にはハンディターミナル4でデータを読み取りホストコンピュータ2及びハンディターミナル4間で無線ターミナル3を経由して無線通信でデータの照合を行ない、資産管理を行なう。ホストコンピュータ2は、データ入力部21、データ記憶部22、入出力部23、制御部24とからなる。データ入力部21は、固定資産Wのナンバー・画像データ・購入日・製品名・設置位置等それぞれの項目を入力する。データ記憶部22は、表1に表されるデータ記憶部12同様に、データ入力部21から入力された固定資産W毎に対応テーブルに記憶アドレスを記憶すると共に、画像データ・購入日・製品名・設置位置の各データを各アドレスへ記憶する。

【0015】入出力部23は、無線ターミナル3と接続され、制御部24の制御によりデータ記憶部22のデータを無線ターミナル3へ出力し、かつ、無線ターミナル3からのデータを入力し、制御部へ出力する。制御部24は、データ蓄積時には、データ入力部21から入力される固定資産Wのナンバー及び各データの記憶アドレスをデータ記憶部22の対応テーブルへ順次記憶させると共に、各データに対応する記憶アドレスへ記憶させる。データ照合時には、無線ターミナル4から入出力部23へ入力された固定資産Wナンバーと、対応テーブルに記憶されたナンバーとを照合し、記憶された同ナンバーの各項目データを入出力部23から無線ターミナル4へ出力する。更に、ハンディターミナル4の指示により記憶されているデータを入力するデータに改訂し記憶する。

【0016】ハンディターミナル4は、読取り部41、無線通信部42、表示部43、端末入力部44、及び、制御部45とからなる。読取り部41は、予め固定資産Wに貼付されたバーコードを読み取る。無線通信部42は、読取り部41で読取ったデータ、あるいは、端末入力部44から入力したデータを変調し無線ターミナル3へ無線送信する。受信時には、受信する無線ターミナル3からの信号を復調し制御部45へ出力する。端末入力部44は、照合担当者が表示部43に表示されたデータを訂正変更する場合、あるいは、ハンディターミナル4の操作時に入力される。表示部43は、読取り部41で読取られるバーコードのデータ、無線通信部42の通信する各データを表示する液晶ディスプレイからなる。

【0017】制御部45は、固定資産Wの照合時には読取り部41からバーコードを読み込み、バーコードの固定資産Wのデータを表示部43に表示させると共に、無線通信部42から読込んだデータを受領し、無線通信し、ホストコンピュータ2に記憶された対応する固定資産Wのデータを受領し、バーコードのデータと共に表示部43に表示させる。又、この表示から照合担当者が照合し、データを訂正する場合には、無線通信部42によりデータを改訂するよう端末入力部44から入力される改訂データを送信する。無線ターミナル3は、入出力部23と接続され、入出力部23からのデータを変調し通信する。更に、ハンディターミナル4からの無線信号を復調し入出力部23へ出力する。

【0018】次に、この実施例の作用を説明する。データ記憶時には、新規購入された固定資産Wに、既にあるナンバー「ABC0001」に続く「ABC0002」を付与すると共に、ハンディターミナル4で読取り可能なバーコードを貼付する。次いで、固定資産NO「ABC0002」の各データをデータ入力部21から入力する。入力された各データは、表1及び図2に表すように、制御部24により「ABC0001」の次の位置に、各データの記憶アドレスを対応テーブルに記憶すると共に、そのデータを記憶部22の当該アドレス位置に記憶する。同様に複数の固定資産Wのデータを蓄積する。

【0019】固定資産Wの照合時は、固定資産Wに貼付されたバーコードを読取り部41で読取る。読取られる固定資産Wは「ABC0002」とする。制御部45がバーコードから読取られた「ABC0002」のデータを、表示部43に表示させると共に、ナンバーを無線通信部42から無線通信させる。すると無線ターミナル3でデータは復調され入出力部23から、制御部24へ入力される。制御部24では、対応するデータをデータ記憶部22に記憶されたデータから入出力部23へ出力し、データは無線ターミナル3から通信される。この信号を無線通信部42が受信復調し、制御部45へ出力する。制御部45は、ホストコンピュータ2からのデータとバーコードからのデータとを表示部43に表示させ、照合担当者が照合する。

【0020】照合の結果、固定資産Wの設置場所等ホストコンピュータ2に記憶されていたデータの訂正が必要な場合には、端末入力部44から入力する。入力されたデータは、ナンバー「ABC0002」の改訂データとして制御部45により無線通信部42から通信される。改訂データは無線ターミナル3で受信復調され、入出力部23から制御部24に入力されデータ記憶部のナンバー該当位置に記憶され、ナンバー「ABC0002」の固定資産Wのデータは訂正される。

【0021】

【発明の効果】従って本発明によれば、固定資産Wに貼付されたバーコードを読み取るだけでホストコンピュータに蓄積されたデータと照合し固定資産Wを特定できる。そのため、専用機器等の知識のない照合担当者でも、容易にしかも、固定資産Wが異なる設置場所に移動されていても、照合作業を迅速に行なうことが可能である。

図の説明

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例を表す構成図

【図2】データ記憶部の配置を表す説明図

【図3】第2実施例を表す構成図

【符号の説明】

W 固定資産

1 固定資産管理システム

11 データ入力部

12 データ記憶部

13 表示部

14 読取り部

15 制御部

2 本体であるホストコンピュータ

21 データ入力部

22 データ記憶部

23 入出力部

24 制御部

3 無線ターミナル

4 端末部であるハンディターミナル

41 読取り部

42 無線通信部

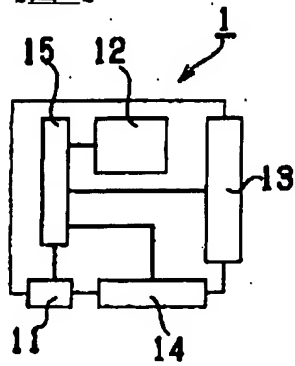
43 表示部

44 端末入力部

45 制御部

図面

【図1】



【図2】

装置NO 付 データ記 憶アドレ ス 付帯ア ドレス	番地記号 部	購入日記 憶部	製品名記 憶部	設置位置 記憶部	
1000000 1FFFFFF	2000000 2FFFFFF	3000000 3FFFFFF	4000000 4FFFFFF		

22

【図3】

